

「カタマ®SP」施工要領書

【製品概要】

【製品特性】

- ・本製品は製鋼スラグと高炉水砕スラグを規定の配合で混合した製品です（高炉セメントや高炉スラグ微粉末等を混合する場合あり）。
- ・製品特性として、十分な散水及び振動転圧を繰り返し行う事で、スラグ特有の固化特性が引き出され徐々に固化が進行します。

【使用機械】

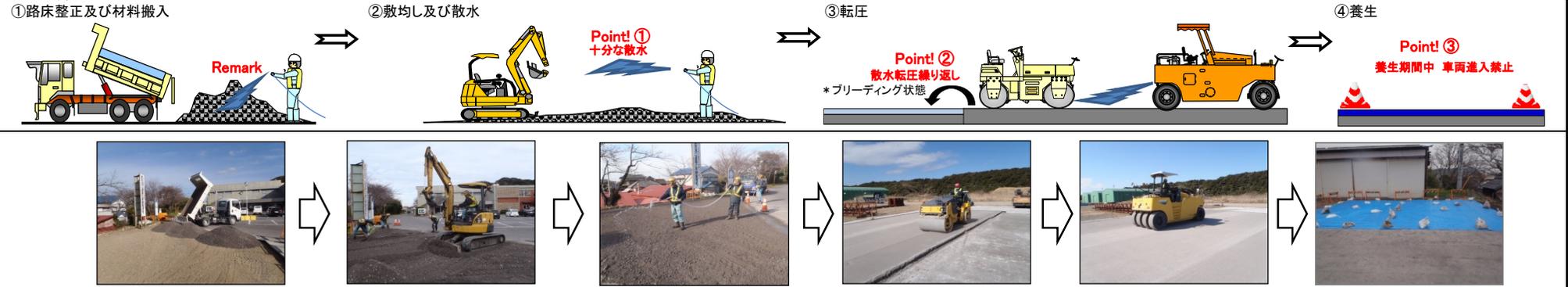
- ・敷均機械 バックホウ、ブルドーザ、モータグレーダ、Asフィニッシャ 等
- ・転圧機械 タイヤローラ、振動ローラ、振動コンパクト 等
- ・散水機械 散水車、タンク及びポンプ 等

【施工条件】

- ・施工厚さ（仕上げ厚さ） 10～20cm/層（1層施工を標準とします）
- ・少量の雨であれば施工可能ですが、降雨が続き水分量が増える条件下では施工しないでください。
- ・気温：5℃以上の施工及び養生を行うようにしてください。

【施工要領】

※固化の促進には材料全体に水分を付与する事が重要です。散水は材料荷下ろし時や敷均し時に行うことを推奨しております。



①路床整正及び材料搬入

- ・路床部の不陸を整正し、路床のCBRを3(%)以上確保してください。
- ・路床面にぬかるみ土等の軟弱土がある場合は、取り除いてください。
- ・カタマSPは納入後早期（1か月程度を目安）に使用してください。材料を長期間放置しますと、高pH水の流出や固化反応の低下が懸念されます。
- ・なお、多少の固化(塊)は重機の踏み固めで砕くことが可能です。

ご参考

敷均し前にも散水を実施することで、より材料にまんべんなく水分付与できます。

手で握る場合は、アルカリ対策のため手袋を着用ください。

②敷均し及び散水

- ・敷均しは計画高より2～3割高盛りし、粗骨材が表面に集中しないように均一に敷均してください。
- ・敷均しの際に十分散水を行い、材料全体に水分を付与します。
- ・散水は1箇所集中して撒かないようにして下さい。散水量は5～8L/m²を目安で、9～11%程度の含水比になるようにしてください。

ポイント①

(目安軽く握った時に形が残り、水分が染み出す程度)

*通常の碎石の場合とは異なります。



③転圧

- ・所定の厚さに敷均した材料を散水しながら、振動ローラにて転圧してください。
- ・表面にある粗骨材を沈め、細骨材と水分が浮上(フリーディング)してくる程度まで転圧を繰り返して行います。
- ・仕上げはタイヤローラ等で行うと、表面がきれいに仕上がります。



注) 転圧後の再整形は極力行わないでください。再整形により粗骨材が表面に現れ、仕上がりが荒くなり耐久性が低下します。

④養生

- ・養生期間中に表面を乱しますと、固化しにくくなります。
- ・養生期間中の目安は、7日～14日です。車両を入れないようにしてください。(気象条件等により固化に要する時間は異なります)
- ・養生期間中に、軒下、樹木下等で、雨が集合して落ちる箇所については、表面が荒れないようにシート等で養生を行ってください。
- ・施工後初期に降雨が予想される場合は、周囲へ排水が流れないように対策を施してください。
- ・表面硬さの目標値は、山中式土壌硬度計による値が、30mm以上です。(防草対策)

Point! ③

HPでもカタマSPのプロモーションビデオを公開しています。



<https://www.nipponsteel.com/product/slag/katamasp/movie.html>

- 【留意事項】
- ・養生期間が過ぎた後であっても日常的に車両が通行するよう箇所では、多少の表面ほぐれが発生したり、粉塵が発生したりすることがあります。
- ・施工中、養生期間中に外気温が5度以下になる場合、凍結等により表面骨材の剥離及び表面性状の劣化が生じる場合がありますので、適用可否や施工時期等ご相談ください。